空港での断熱窓改修（広島国際空港）

■ 改修場所：ターミナル東面

建物概要			
都道府県	建物用途	規模	築年数
広島県	空港	31,000 ㎡	32 年
建物の概要・立地		改修区分	
山間部（高度331m）		断熱窓(Low-Eガラス)、LED照明器具	

■ 空港のカーボンニュートラル実現に向け、グリーントランスフォーメーション(GX)を推進しており、その一環としてガラスの複層化を検討。

■ お客様が飛行機から乗り降りされる際に利用される固定橋の暑さ対策として、以前もガラスの複層化を行った実績がある。

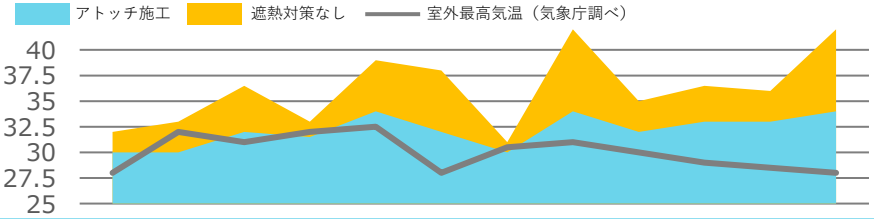
導入効果

GXへの取り組みとして効果を実感

• 導入した断熱窓の効果について、声を聞きました。

> 放射熱測定で9℃の改善がみられ遮熱対策が確認でき、室内が快適な空間となったと感じています。また、夏季の消費電力削減効果については49%減、冬季の消費電力削減効果は39%減を見込んでいます。
> 加えて、既存のガラスをそのまま使用できるといった点も廃材を減らすことにつながり、空港が目指しているGXの実現に繋げることができたと考えています。

施工前後で平均3.9℃改善 ※夏季12日間で効果測定



改修のポイント

施工性の柔軟さと性能効果の両立

• 遮熱・断熱双方への効果を発揮
• 導入製品の施工性・コスト・色・形状においての自由度の高さ
• 施工の負担が少ない

This material is the property of Sustainable open Innovation Initiative.